

先日突然、私のところへ一通の手紙が届きました。

差出人は福井県鯖江市の小児科の先生からでありました。

文面を見ますと「重城良造著一臥薪嘗胆、幾早霜」の文中に、国際ロータリーガバナー秋元秀夫氏提供の元マレーシア上院議員の詩がのせられていました。

この詩の経緯を知らせて下さい・・・とありました。

この詩はかつて多くの日本人の心をうった詩であります。

あれから十数年、皆様にもぜひ一度お読みいただきたいと考え書かせて頂きました。

かつて 日本人は
清らかで美しかった
かつて 日本人は
親切でこころ豊かだった
アジアの国の誰にでも
自分のことのように
一生懸命尽くしてくれた
何千万人もの 人のなかには
少しは 変な人もいたし
おこりんぼうや
わがままな人もいた
いなばつている人だつて
いなかつたわけじゃない
でも その頃の日本人は
おおらかで まじめで
希望に満ちて 明るかつた
戦後の日本人は
自分たち日本人のことを
悪者だと思ひ込まされた
学校でも ジャーナリズムも
そうだとしか教えなかつたから
まじめに
自分たちの祖父や先輩は
悪いことばかりした残酷無情な
ひどい人たちだつたと
思っているようだ
だから アジアの国に行つたら
ひたすら ペコペコあやまつて
済まなかつた悪かつたと言いなながら

ひとりよがりの
自分本位の えらそうな態度をする
そんな 今の日本人が 心配だ
本当に どうなつちまつたんだらう
日本人は
そんなはずじゃなかつたのに
本当の日本人を知っている
わたしたちは
今は いつも 歯がゆくて
くやしい思いがする
自分のことや
自分の会社の利益ばかり考えて
こせこせと
身勝手な行動ばかりしている
ヒョロヒョロの日本人は
これが本当の日本人なのだらうか
自分たちだけの楽しみや
ぜいたくに ふけりながら
自分がお世話になつて住んでいる
その国と 国民のことを
さげすんだ眼でみたり
バカにしたりする
こんな ひとたちと
本当に仲よくしてゆけるだらうか
どうして
どうして日本人は
こんなになつてしまつたんだ
マレーシア上院議員
「ラジャー・ダー・ノンチェク氏の詩」より